

退任

中村洋志



任期：平成26年1月8日
～平成30年1月7日

昔から、「出会いは人を成長させ、別れは人を豊かにする」と言われています。故郷南九州市での四年前間は、子どもたちの笑顔に癒やされ、素晴らしい職員・スタッフに恵まれ、温かく優しい方々との出会いの連続でした。まず何よりもそのことに感謝いたします。

その中で、元聖路加国際病院名誉院長「日野原重明」先生による、百四歳の誕生日を記念した講演会が、「命と平和」をテーマに知覧の地で実現したことは夢のような瞬間でした。残念ながら昨年七月十八日午前六時三十三分に百五歳の天寿を全うされましたが、今でも私の生き方に大きな影響を与え続けてくださっています。最期の遺言は「キーボンゴール」という言葉でした。自分らしさを失わずに人生を生き抜くという意味だと解釈しています

が、誠に含蓄のある言葉です。

今、教育を巡る状況には厳しいものがありますが、子どもたちを豊かに育んでいくための歩みを止める訳にはいきません。教育は、乳幼児から高齢者までが対象であり、家庭や学校、地域社会や関係団体などのあらゆる力を結集した総合的な取組です。子どもたちは、次代を担っていく「社会の宝」です。本市では、県下に先がけて昨年四月から「家庭教育支援条例」が施行されています。地域ぐるみで子育てをしていくという優しい風土が醸成されることを心から願っています。

本市は、豊かな自然に恵まれ、伊能忠敬が絶賛し、与謝野鉄幹、金子夫妻も歌に詠んだ、颯々の美しい海岸線はもとより、知覧麓の武家屋敷、命や平和学習の場である知覧特攻平和会館、全国的にも注目されている仏教史跡でもある川辺清水地区の磨崖仏群など、価値ある「宝物」が数多く残されています。その価値をもっと積極的に発信してほしいと願っています。

最後に、南九州市のますますの発展と市民の皆さま方のご多幸を心から祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

南九州市教育委員会教育長 退任・就任のごあいさつ

就任

有馬 勉



平成30年1月8日就任

新年あけましておめでとうございませう。南九州市教育委員会教育長として就任するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

現在、南九州市では「自然豊かで創造と活力に満ち、くらしのちが輝く、こころやすらぐまち」創りが進められており、教育文化においては「心の豊かさ創造力を育む教育文化のまちづくり」に努めてきているところであります。

私は、こうしたこれまでの教育行政を引き継ぎながら山積する課題解決に向けて市長、副市長、教育委員の方々や事務局職員をはじめ、議会、議員および関係諸団体の方々のご指導、ご協力を賜りながら南九州市の教育の充実・発展のために尽力してまいり所存ですので、市民の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今日、教育をめぐるさまざまな課題が指摘されており、これらの課題を一つずつ解決しながら、次代を担う子どもたちが郷土に誇りを持ち、一人一人輝ける未来を創造していくことができるようにするためには、学校や家庭はもとよりさまざまな力を結集して取り組んでいくことが大切なことだと考えております。

幸い本市には、遺跡遺産や文化遺産が継承されてきており、これらの歴史や文化はかけがえのない財産です。加えて、温暖な気候と豊かな自然に恵まれており、こうした環境の中で、子どもたちはもとより乳幼児から高齢者まで活気あふれるような教育的風土の醸成に努めてまいりたいと思っております。

最後に、南九州市の教育行政が関係者のご理解、ご協力を賜り時代の負託に応えながら充実・発展していくよう尽力し、育んでくれた郷土のために貢献できればと考えておりますので、前任の中村教育長同様よろしくお願い申し上げます。